

巻頭言

自由学園創立から100年目となる2020年度、新入生の代表によって、記念講堂のステージ上に掲げられた「自由の旗」に100個目の星がつけられ、大きな拍手で喜びが共有されました。8月24日、新入生を迎える歓迎セレモニーでのことです。

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともなう緊急事態宣言が4月7日に発令され、自由学園では全学的に4月の登校を見合わせ、第100回目となる女子部・男子部の入学式はオンライン配信により行われました。

宣言解除を待って、幼児生活団幼稚園と初等部は6月に入って入園式、入学式を行い、感染症対策のもと、新学期の生活が始まりました。しかし寮を持つ中等科以上は、通学生も寮生も共に安心して生活を再開できる状況を慎重に検討してオンライン授業の継続を決定し、女子部男子部の登校による学校生活は、2学期の始業式、8月24日より始まりました。

約5カ月の自宅学習を経て初めて登校する新入生をどのように迎えたらいいか。高等科3年生は新入生係を中心に検討を重ね、「新しい兄弟姉妹を歓迎の思いを込めて、温かく大切に迎えよう」と、歓迎セレモニーを企画しました。

星付けに続いて、各部の委員長からの歓迎の言葉、そしてそれに応え新入生もありのままの期待と不安の思いを述べました。

会場は間隔をあけた座席配置に、新入生とその保護者、教員と一部の生徒のみが集い、他の生徒たちは教室でライブ配信を通じて参加するなど、感染症対策の制限と緊張感がありましたが、生徒たちが中心となって企画したこのセレモニーは、その緊張感をはるかに超えてとても温かく、新しい友への思いやりにあふれるものでした。

2020年度は、人と人が頭を寄せ合って共に学び、手を取り合って共に働き、大きな声で共に歌い、何気ない雑談を楽しみ共に笑い、涙を流す友の隣に座って寄り添い、食卓を囲んで心も体も満たされる時間を共にする、人間が人間らしく生き成長していくうえで大切なこれらの行動が禁止されるという、これまでに経験したことのない苦しい1年でした。

しかしこの1年を通じて、私は生徒たちの口から、「つながりを大切にしよう」「オンラインでも学年を超えた交わりの機会をつくろう」「愛を感じられる寮にしたい」「1年生の名前を覚える工夫をしたい」「みんなで楽しめる楽しい企画を考えたい」といった言葉を繰り返し、繰り返し聞くことが出来ました。そしてそれらにどのように取り組んだかという報告も受けてきました。これは本当にうれしいことでした。

100個目の星は、温かい交わりの大切さを体感してきた在校生が、コロナの状況にあっても、どうか新しい友も同じ温かさを感じられますようにと願う祈りの中でつけられたものです。このことをしっかりと記憶にとどめておきたいと思います。

この1年、大きな制限の中にあっても様々な創意工夫、献身的な努力をもって自由学園の教育を支え前進させてきたすべての教職員の皆さんの取り組みに、心からの感謝をお伝えします。

学園長 高橋和也